

政策提案特別委員会記録

令和6年2月22日

【開催日】 令和6年2月22日（木）

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午後1時48分～午後3時3分

【出席委員】

委員長	大井 淳一朗	副委員長	中岡 英二
委員	伊場 勇	委員	笹木 慶之
委員	山田 伸幸	委員	吉永 美子

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

副議長	中村 博行		
-----	-------	--	--

【執行部出席者】

なし

【事務局出席者】

局次長	中村 潤之介		
-----	--------	--	--

【審査内容】

- 1 政策提言のテーマについて
- 2 その他

午後1時48分 開会

大井淳一朗委員長 それでは、ただいまより政策提案特別委員会を始めたいと思います。今日の付議事項は、政策提言のテーマについてです。前回の委員会におきまして、これからの流れを協議しました。その中で、取り急ぎしなくてはいけないということで、テーマの設定が出ましたので、今日は政策提言のテーマについて協議していきたいと思います。前回の委員会の中で、市民のニーズの把握として議会報告会が出ました。議会報告会を今年6月、9月、12月と3回開催しており、喫緊のニーズの把握に最適と思われるので、その中で市民の皆様から頂いた意見を今回

お配りしている資料の中に取り入れております。全てを網羅できておりませんで、抜粋となりますけれども、大きく、市の中期基本計画の基本施策に沿ったものについては、その中に当て込んでおります。中期基本計画、ダイレクトに当てはまってないというか、振り分けが少し難しいと思われたものについては、その他ということで、項目別に分けてあります。まず、1点確認したいのは、ここに挙げてあるものから選びましょうという意味ではなくて、あくまでも市民のニーズとしてこういったことが挙げられているということです、この中にあることに縛られずに、皆さんには、あくまでも参考資料として捉えていただければと思います。あとはこれを参考にしながら、皆さんと政策提言のテーマを絞り出していこうと思います。今日の進め方なんですけれども、皆さんから御意見をお伺いして、いわゆるブレインストーミングということでまずは挙げてもらって、それを次回以降に整理して、だんだん絞り込んでいこうと思っています。今日は皆さんからこういったものを政策提言のテーマにしてはどうかということを挙げていただければと思います。それに対して、気になる点とかがあれば協議していきたいと思いますが、ブレインストーミングなので、出したものに対して否定的なことはあまり言わず、「ここはどう思いますか」というように、いい感じの委員会運営、和やかな雰囲気で行きたいと思いますので、よろしくお願いします。今日は、議会カフェの要望事項を簡単に確認しましょう。33ぐらい基本施策がありますが、全てを挙げられているわけではありません。子育て支援の充実ということで挙げられております。これが高校までの医療費の無料化です。高齢者福祉につきましては、介護タクシーに関する要望がありました。地域福祉に関しては、民生委員の協力員制度についての要望がありました。地域医療体制については、救急の医療体制や受入れの話などがありました。防災体制については、自主防災に関するもの、空き家対策の推進ということで空き家に関する意見が結構ありました。環境美化については、野良猫対策、特にふん尿がひどいという要望がありました。都市公園については、具体的に本山岬や江汐についての要望です。道路交通網については、よく出ていたのは、路肩の草が出

ているのでどうにかしてほしいということが多かったように思います。スポーツによるまちづくり、スポーツそのものではなく環境づくりのところでは、体育館にエアコンをつけてほしいということがあります。このたびは、市民体育館ということになります。ごめんなさい、少し飛びましたが、道路交通網の整備のほかに地域公共交通について、100円バスやデマンドタクシーといった要望が挙げられておりました。商工業の振興については、山陽小野田市の銘菓が欲しいとか、駅前の商店街の活性化とかがありました。中小企業市内業者の活用ですね。観光については、観光資源の活用に関する要望がありました。芸術文化については、ガラス未来館に関する要望がありました。その他として、空調設備、小規模土木、給食費、トイレの洋式化、買物、鳥獣被害、跡地利用、オートの駐車場、広報紙、公式LINE、防犯カメラ、太陽光パネル、学校関係、ごみに関するということで結構多岐にわたっております。全て提言できるわけではありませんが、これを一つの参考材料として、この資料の感想でもいいですので、皆さんから意見を挙げていただければと思います。

山田伸幸委員 こういったいろいろな要望があるのは確かなんですよ。市民それぞれが切実に願っている問題というのは、多岐にわたっています。なぜ、そのように多岐にわたるかといえば、面と向かっている状況がそれぞれ違うということがあるんですけど、それらが持つ根本的な問題に目を向けて、その根本的課題は何なのかというところから詰めていかないと、これら一つ一つを潰していっても、なかなか議会らしい政策提案とは言えないと思うので、そういう観点でやっていったらどうかなと思います。

吉永美子委員 確認ですが、議会カフェでの御意見は、コロナ禍が一段落して再開してから出てきたものですか。

大井淳一郎委員長 そうですね。6月議会が多分そうでしたよね。2会場でや

って、6月、9月、12月と。再開したのが6月からかと思いますが、そこからの意見を拾っております。

吉永美子委員　今、話がありましたように、当然ながらいろいろな思いが多岐にわたってあり、年代もありますし、暮らしておられる環境もあると思うんですけど、ここの中で、前回も申し上げたように、政策提言をするのには、核とまで言わないけど、ある程度絞ったものであることと、市民から見て分かりやすいものであることは大事なかなと。もう一つは、すみません、忘れてしまったんですが、そういう思いを伝えさせていただいたんです。市民から見て分かりやすいものということは誇張したいことです。あと、もう一つは、これだけではなくて前も話が出ています一般質問で、どれだけ同じような内容で議員が訴えてきたかというのも、ひとつの提案というか、こうすべきではないかと言ってきたことも含めての政策提言であるべきじゃないかなと思います。

大井淳一郎委員長　山田委員、吉永委員から意見を頂きました。要望が多岐にわたっております。私が今回、中期基本計画に従って分類したのは、この要望事項の上にある基本施策に焦点を当てて、例えば、高校医療費無料化と提言するだけではなくて、子育て支援と大きくくくれるじゃないですか。そのように中期基本計画で一応はやっていたという狙いがありますので、結構、基本施策を見られるかなと思います。今日はお配りしておりますが、中期基本計画に33の基本施策がありますが、これをそのまま使うんじゃなくて、これが市の一つの方向性でもありますし、分類としては最適かなと思っております。ただ、ある意味、基本施策、こういうのにしようねというのを選んでいただいたら、それに基づいて、要望事項とか、吉永委員が言われた一般質問——一般質問というのは、誰々議員ということじゃなくて、議員活動ではあるけれども、出された課題等を議会全体の共通のものとしてやっていこうというのは、割と最近の議会のトレンドですので、そういうものも加味していくのも一つではないかと思います。だから、例えば子育て支援を充実しましょう、そ

して、高校医療費無料化と書いていますけど、もちろんこれだけじゃないですよ。それ以外のものは、直近の議会報告会には挙がっていないけれども、皆さんそれぞれで取り組んできたものがありますので、そういうものはどんどん入れていけるし、入れるべきだと思うし、現場の声を聞くならば、子育て支援をするんだったら、そういった団体と意見交換をして、こちらのものをよりよくブラッシュアップしていくほうが流れはいいかなと思っているんですよ。だから、方向性をだんだん決めていこうかなと思っています。

山田伸幸委員 公共交通のところが非常に小分類で大きく、市民病院のことからバスの小型化まで、いろいろ多岐にわたっているんですね。これらは、不便だからこそ、しかも必要性が高いからこそ、それぞれの必要性に沿っていろいろな意見が上がったと思うんですね。なぜかといえば、山陽小野田市に公共交通はあるけれど、住民の要望に沿っていないから。これが証左ではないかなと思うわけです。商工業の振興とかいろいろあるんですけど、切実な要求に対して、議会がそれを拾っていくのか、それとも網羅的にいくのか、大井委員長がまとめられた基本施策に基づいてやっていくのかというところでは、ある程度方向性をどこに絞っていくのか。今日も市長の施政方針の中で、子育て支援の充実とか、安心安全のまちづくりとか、かなり絞ってやられていたと思うんですけど、そういういった観点で要望事項を改めて見直していくことが必要かなと思いました。

大井淳一郎委員長 そこに書いてあることを全てできないし、私たちの委員会の中である程度的を絞って、そこから提言を出していくと。今は一つの例として、持続可能な地域公共交通網の形成という意見を出されたと理解しております。

伊場勇委員 この要望の事項で、もちろん山田議員が言われた公共交通については、不安に思われている方が多いと認識しておりますし、今からバス

の便がもっと減っていく、ＪＲでもそれが問題になっていますし、どうやって今から持続可能なまちづくりをしていくのかというのは、絶対に考えていかなきゃいけないところなんだろうなと思います。条例になるか政策提案になるのかはまた置いておいて、公共交通を使わないと残らないですよ。もちろん民間事業者にも手伝っていただかないといけないところでもあるし、そういった条例については、その後の未来を考えて効果があるのかなと思いました。取りあえず、公共交通のことは選択肢の一つとして挙げてもいいと思います。

笹木慶之委員　基本構想の中に、市が実はもうその構想をつくっているわけですよ。もちろん議会でも承認している部分があって、それはそれとして視野に入れながら、いろいろと原点に立って物事を考えておるのが、１点目として、地域との接点を多元化して、住民や地域が困っていることから物事を見つけたらどうかということです。細かいことは別としてです。２点目は、今度は、役所の担当をまたがる横串発想から見つけるということです。いわゆる漏れているものがあるんじゃないかと。それについては、我々は何かしなくてはならんんじゃないかと。３点目は、マニフェストから見つけるということです。もちろん市長の下で政策的な議論がされておるかもしれんけれども、現実的にはそれが本当に動いているのかどうか。成果を確認するということです。次に、議会のチェック機能や住民参加の促進の側面から、そういった問題点を見つけるということです。これはさっき出た議会報告会もその場かもしれません。そして、類似自治体のベンチマーキングから見つけていくということです。類似団体でも同じような現象が起こっておって、自分たちがどうあるべきかということから、テーマとして捉えるべきじゃないかということ考えていました。では、その次をどうするかということなんだけど、この中に書いてあるのは、そういう取組をするためには、どうすればいいのかということで、普通であれば地方自治体は条例を定めるわけですよ、決まり事をね。だけど、それ以外の方法で対応すべき事案があるのではないかということです。それは必要性の問題。次は、いわゆる法

的な制度や条例等々で定められておるものと変わるべきものがないかということです。違ったものもあるかもしれませんが、そういったものに適応させるべきじゃないかということです。3点目は、運用（聴取不能）が本当に有効的であるのか、本当に妥当性があるのかどうかという問題です。次は、実効性です。継続的に取り組まれていて、問題を解決できるかどうか。そして、最終的には住民全体の公平公正な利益に関するものか、特定の人利益を得るようなものじゃないかどうか。皆さんが、本当にあってほしい、あるべきだというものに絞るべきじゃないかということで、その辺を踏まえた考え方を基本に置いた事案の取扱いにしたかどうかと思いました。もちろん、その中でまだ項目はそこまで入っていきませんが、この中にたまたま出ておりますように、道路交通関係の問題について、たくさん事案があると思うんです。実際はやっているかやってないか。例えば、昨日、一昨日、実は問題があったから行ったんだけど、ごみが道に物すごく捨ててあるんですよ。それは、誰がするのかということで、一応対応しましたけど、その取締りもさることながら、環境を維持していけるようなものを考えなくてはならない、つまり原因をつかんで解決するということです。では、誰がどうするのかというのは、市の行政だけがやるのではなしに、議会だけがやるのではなしに、市民も一緒になってやれるようなものではないのかということで、環境問題や交通問題にひっくるめたようなものにテーマがあるんじゃないかなと実は思ったわけです。細かい部分についてはまだそこまでは言いませんが、その辺で整理してみたら、先ほどのようなものが私自身には少し見えましたから、あえて言わせてもらいました。まだ、なかなか具現化されていませんが、そこに市民の不満や不平というか解決すべき事項があるというか、そういったものがやっぱり関わってくるのかなと思っています。今日のところはそこまでにしておきます。まだまだ細かい点については言えませんが、そのようなことがたくさんあるんじゃないかなと思いました。これを私も個人的にいろいろ読んでみたいと思います。

大井淳一郎委員長 笹木委員の言われた視点に立ってやっていかなきゃいけないと思っております。よく僕らは提言するんだけど、行政にやってくれという従来型の提言ではなくて、笹木委員がいみじくもおっしゃった、今は協創によるまちづくりじゃないですか。市民も協力できるところは協力していく、行政は協力する、すべきところはやる、やることはやっていく、議会は議会でやるってそれぞれ役割があると思うので、そういうことも踏まえた提言でないといけないと思っております。

山田伸幸委員 山陽小野田市の土地の形から公共交通のことを考えると、一つは山陽小野田市には南北を貫く小野田線と山陽本線があります。連絡しておりませんが、これがあると。以前、竜王山でヒメボタルの案内をしたときに、山口東京理科大学の学生と保護者の方が来られたので、いろいろ話をしたんですけど、そのときに「山陽小野田市に来て、困られたことは何ですか」って聞いたら、「厚狭駅に降りたんですけど、山口東京理科大学まで行く便がないんですよ」と言われました。電車だったら小野田駅で乗り換えればいいんですけど、要するに、これに乗ったらもう行けるよというのがない。地元の人だったら、ここで乗り換えれば行けるのは分かるんですけど、「よそから来た者にとっては分かりにくかった」と言われておりました。それと以前、議会の産業建設委員会が岡山県の玉野市に2回行っているんですよ。玉野市は横長の町で、横長にバス路線を芯のように通して、その周辺をデマンド交通で回していく。そのデマンド交通は、一つはタクシーを回すんですけど、ごみ箱が乗車場所だと。ごみ箱設置のところに乗車場所を設置することによって近隣の人が皆乗りやすくなって、ドア・ツー・ドアではないけれど非常に便利だというのがあったんですね。それを山陽小野田市に引き当てるために、以前、委員会として厚狭駅と山口東京理科大学を結ぶようなバス路線にして、周辺は横串を刺すようなデマンド交通でどうかという提言を出したんですけど、残念ながら全く無視されたんです。鉄道のことでも忘れたらいけないということを考えまして、先ほど小野田線って言ったんですけど、小野田線がいみじくも山口東京理科大学のすぐ近所

まで走っているわけですね。雀田駅をうまく活用して、今はつながっていない山陽本線と小野田線をＪＲにお願いしてつないでいけば、厚狭駅から宇部方面で雀田駅まで行けると。それを縦の線にして、その周辺をデマンド交通でやれば、一つの交通網ができ、鉄道も見捨てないといったものができるんじゃないか。例えば、病院に行きたい人でも、駅を起点にしてデマンドのルートをつくっていけば行けるんじゃないかなと思います。特に最近いろいろなところで入っているのが、使われなくなった駅舎です。例えばここで言ったら小野田港駅は、建物はあるんですけども、封鎖されていて誰も入れないような状況になっています。小野田港駅は無人駅になっています。南小野田駅はもうほぼホームだけです。例えば、美祢線で言ったら厚保の駅は地域に開放されているんですね。地域の人たちが使っている。それと、山口線の宮野駅も地域の人たちの交流拠点になっていて、そういったところに人々が集まって列車に乗ったりする人たちの管理もするということもされている。そうすると、ホームが荒れなくなるんですよ。ほったらかしにすると、ホームが荒れて事故の元なんですね。ですから、そういった地域の人たちが、駅舎でコミュニティーをつくりながら、そういった利用も図っていくということもありまして、山陽小野田市の小野田線を厚狭駅から何とかつなげられれば、公共交通網が生きた形で地域の人コミュニティーもつくりながらできるんじゃないかと。今の雀田駅はもうほぼ無人駅ですよ。時々、おられるのかな。（発言する者あり）いないかな。この間おられた気がしたんだけど。乗換えも狭いから、なかなか地域の人があそこを拠点にということとは難しいかもしれないけど、あそこの駅のすぐ前には、うどん屋さんがあるんですね。（発言する者あり）例示するところなるんです。ですから、公共交通の柱である鉄道と地域を結ぶ足をリンクさせていく活動がこれから生きていくんじゃないかなということで、例として紹介させていただきました。

大井淳一郎委員長　ありがとうございます。僕も最初、冒頭、否定しないようにと言いましたが（笑い声）取りあえず意見を聞こうというスタンスで

いきました。でも、これをやるかやらないかは分かりませんが、公共交通を例に具体策を挙げていただきました。

笹木慶之委員 人の意見をどうだこうだ言いませんが、私思うのは、公的機関や民間事業者を巻き込んだものはつくれないんじゃないかと思うんですよ。あくまで地方自治体の市民の生活の中で生まれてくるものだと思います。我々が物を言えることには意見を言えるけど、ある事業者をそこに加えたとか民間の力を借りたとかというような決まり事はちょっとできないんじゃないかなと思うんですけど、どうでしょうかね。

大井淳一郎委員長 さっき、ごめんなさい、勘違いしていたのかな。限界はあると思っておりますけれども、やっぱり民間の力も協力も必要なところもあると思うんですね。（「それは精神論であって、具体論を盛り込むわけにはいかないんじゃないかと思うわけよ」と呼ぶ者あり）そうですね、ちょっとそれは具体的に入れる中でやっていかないといけない。

笹木慶之委員 政策提言とするためには、先ほども言いましたように、市民の生活を守るためのいろいろなことについてやることはいいんだけど、やっぱりそのルールというか、範囲はある程度、物事を見た上で言わないと、広げすぎて大上段に構えてもできないんじゃないかなと実は思うんですよね。だから、我々も6年ぐらい前、総務文教の関係で、ちょうど山口東京理科大学薬学部ができたときに、まちづくりをどうするかということで、私どもでそういう意見を書きました。新幹線を厚狭に通して、そして小野田線がどうだこうだっていうことまで書いた。全然その実行力はなかったけれどもね。それはそれでいいんだけど、このたび我々がやろうとしていることは、先ほどいろいろ言いましたけど、結果的には、行政として決まり事がないものについて、市民生活の中で、地域住民の皆さん方に我々がいろいろ具申したり意見を言ったりする場があるわけで、それに対して提言をしながら、本当に解決できるようなものに焦点を絞るべきだと思うんだけどね。どうでしょうか。そのためには、さっ

きあったように、地域運営組織の力をいずれ借りないといけない時代が来るわけだから、その中に織り込んでしまって、市と地域と住民といった皆さん方が一致団結した中で、よかったという答えを出せるような提言ができないかなと思っています。そのようにお願いしたいと思います。

大井淳一郎委員長　そうですね。だから、名宛人は行政だと思うんですよ。ただ、行政の果たす役割は、民間業者に言うこともあるし、言われたように地域運営組織を活用したものも提言にしないといけないっていうのは、多分、皆さんは一致していると思っております。具体的にやる中で調整していきましょう。公共交通の話ばかりが出ていますが、これに決まったわけではないのでね。

伊場勇委員　公共交通のことは、「みんなでつくる公共交通基本条例」のようなものをつくっているところもあるし、みんなでつくるっていうのは、今の本市のRMOを絡めて何かうまいことできたらいいなって思います。公共交通にもぶら下がっているような事案があるので、それも考えながらいくのが必要な方向性だと思います。僕はそれ以外に思ったのが、公共施設の跡地なんですよ。計画があって決まっているところもあれば、そうじゃないところもある。旧津布田小学校もそうですし、埴生小学校の跡地もそうです。しかし、一方、社会福祉協議会の跡地はもう決まっていると。探せばほかにもいろいろあると思います。そういったところって、出たとこ勝負でその都度決めている感じがして、何か計画の前に条例というか考え方がしっかりあるのであれば、それにのっとなって考え方がうまくいく可能性もあるのかなと。すると、市民も安心するじゃないですか、この条例にのっとなってやっていますよ、この計画がもうすぐ出来上がりますよって言えるのかなと思いますし、未来に向けての計画もつくりやすくなるところもあるんじゃないかと考えています。

大井淳一郎委員長　跡地活用については、施設整備計画があって、長寿命化とか廃止とかがあって、廃止と決定した施設に関しては廃止したけれども、

跡地活用ってなると跡地利用の検討委員会みたいなのを開いて、その都度何か対応している感じがありますよね。L A B Vは、既に一つのプロジェクトの中で、社会福祉協議会の跡地は何か入っているけれども、言われた津布田小学校もそうだし、津布田保育園も廃園になっているのに壊すこともできない。何に使うのかも決まっていない。埴生小学校もそうだし、ほかにも小野田側も——小野田側はまだないかな。そういった土地活用についてのビジョンがはっきり見えていないところはあるよね。それを条例でやるのか提言でやるのかは、アプローチを考えていかないといけないと思います。これも一つの案として了解しました。

中岡英二副委員長 私はこの要望事項を見まして、出ている件数が多いところは市民が困っていることだと思うんですね。その中で先ほどから出ております地域公共交通の継続的なプランも大変大切なことだと思います。それに付随して、私も言っていますように100円バスもその要因の一つだと思います。具体的な策としては、そういう付随したものをできるだけ地域公共交通の中に取り入れてもらいたいなというのがありました。それと空き家対策です。その中にさっき伊場委員が言われるように跡地利用がなおざりになっているのがすごく気になっております。特に津布田埴生小学校の跡地の計画はあるのかもしれませんが、その辺の計画をしっかりと市民に示して、市民が安心できるような計画を持ってやっていただきたいなと思います。先ほどからありましたように、本山小学校も児童が少なくなっていると。そうした中で、校区はどうなるんだろうか、小学校がなくなったらどうなるんだという市民の声を聞いています。そうした中で、さっき言われたように跡地利用をしっかりと示せるようにすれば、市民の方も、校区がなくなるわけじゃない、小学校がなくなるだけだよというように安心できると思うんです。だから、言われたように、特区を条例等につくって、ここはこういう特区なんだと示すのもいいんじゃないかなと思っております。そうした中で、具体的には埴生や津布田の住民から「スーパーが欲しい」という声があるじゃないですか。そういう付随したものを関連的に考えて、跡地を利用する。

そうした中で、埴生の活性化もできるという複合的な施策をここで提案していくのも一つの手じゃないかなと思います。

大井淳一郎委員長　今、言われたことも従来からありましたね。私も整理していて、埴生では買物の意見も多かったように思われます。地区や校区でそれぞれ課題は異なりますよね。固有のものもあるし、また、市の全体のものにできるものもあると思っております。今、RMOで地域カルテによって地域の課題をそれぞれ洗い出しているところではありますけど、そういったものを見ることができると、それぞれの地区にどういった課題があるか分かるんで、そういうものもいずれ資料請求をしたいですね。なかなか、表に出ていないのかな。埴生でRMOをやっているけど、地域カルテか何かを出されましたか。教えてもらえますか。

伊場勇委員　埴生では吉永委員もよく一緒にやっているけど、山陽地区だからいろいろな、そして物すごい数の課題があります。例として、中学生にアンケートを取って、物すごい数を吸い上げています。その中で、何を一番やらないといけないのかという優先順位をみんなで話し合っつけているので、課題としては何百とありますよ。なので、それについては、各地域ではもう挙がっていて、もちろん跡地利用についても優先順位は結構高いところにあったと記憶しています。

大井淳一郎委員長　ありがとうございます。そういったことも一つの材料にはなっていると思います。跡地のこともあるし、多分公共交通のこともあっていると思います。そのほか、この際なので。

山田伸幸委員　山陽小野田市にとって非常に重要な課題として、人口減少があるろうかと思うんですね。校区ごとでは、やはり周辺部の落ち込みが激しいと。埴生地域、本山地域ですね。先ほど言われたRMOでしっかりと課題を見つけ出していくということがあるんですけど、議会としても、そういう目で地域がずっと——どういうふうによこのまちづくりを活性

化させていくかという提案も含めてしていかなるを得ないと思うんですね。無責任に「RMO頑張ってください」じゃなくて、先進地の事例を勉強してくるのは議会でないとなかなかできにくいんじゃないかなと思うんです。そういった意味でいろいろな先進地の情報をしっかり集めて、必要があれば先進地まで見に行って、この地域にはこういった対策が必要なんだというのはあるかと思うので、そういった地域のことを頭に入れながら、議会としてどう対応していくべきかという方向を打ち出せばいいんじゃないかなと思います。全国にはいろいろなところがありますからね。この間勉強した中では、岐阜県の本巣市があります。ここは四つぐらいの町が合併したんですよ。ですけど、あそこは本巣谷か、中央線の沿線上で点在しているんですね。その中にあってもまちづくりをしっかりとってきたのをこの間、公共交通のところで勉強してきました。人口を手放さないという特色を生かしたまちづくりがしっかり行われているので、参考になるかなと思いながら帰ってきたところです。

中岡英二委員 人口減少というのは、初めは市の施策じゃないと解決できないんじゃないかと思っていたんですよ。山田委員がいろいろなところに行かれて、子育て政策を見てこられたと思うんですが、その人口規模というのはどれぐらいで可能なものなのかを知りたいです。

山田伸幸委員 千差万別です。30万人のところでも減少し続けるところは、それを反転させようと一生懸命に取り組んでいます。人口が割とあって一番頑張っているのが千葉県の流山市ですね。日本一だと言われているんですよ。東京近郊というのはあるんですけどね。地方に行ったら、人口3万人の豊後高田市ですね。ここは、以前、民生福祉常任委員会で視察を申し込んだけど、多すぎて断られました。だから、いろいろあるんですね。山の中は山の中で、元の民生福祉常任委員会が——大井委員長は行かれたかな、島根県の邑南町(発言する者あり)ああ、行っていないか。島根県は過疎という言葉が初めて使われた県なんですね。中国山地沿いのところでは、もう死活問題なんですよ。若い人たちを獲得して

いくというのは。特に、20代から40代の女性にターゲットを絞って取組を進めているんですね。そのために、職場をつくらないといけないし、病院も必要ですし、子供たちを安心して預けられるような施設も要るし、学校での教育も必要だと。先進的な教育をするために町が高校に投資して、先生をよそから呼び込んで、優秀な子供を育てるというようなこともやっていました。そういった先進事例は、全国各地にいろいろありますよ。

伊場勇委員 本市の特色としては、まず山口東京理科大学があると思うんです。公立大学です。高校もそれなりの数があって、小中としてバランスがいい感じの市だなと。逆に、特色でもあり強みでもあるので、それをもっと推進させるために、教育という観点でテーマを何か一つに絞ってできたらいいかなと思うのが1点です。もう1点は、スポーツについてなんですが、スポーツと言ってもいろいろ関連するところがある。もちろん健康という観点でスマイルエイジングに取り組んでいますし、中学校では部活動の地域移行も問題になっていますし、スポーツを振興するに当たってはクリアしないといけない問題があるので、それについての政策提案や条例制定というのにも必要かなと思っています。

大井淳一郎委員長 そうですね。ありがとうございます。教育100年大計と言われて、よくユーチューブで出る安芸高田市があるじゃないですか。議会と喧嘩している。あの市長が一番力を入れたいのは教育らしいですよ。そうなんだと思ってね。だから、やっぱり未来をすごく見てやっている。基本計画を持っている人は22ページを見ていただければ計画の背景と課題があります。要は何が言いたいかというと、この基本計画をつくる上で重要度が高いか低いか、満足度が高いか低いかっていうことで、A、B、C、Dでランクをつけているんですよ。一番充実を望まれるところで、満足度が高く重要度も高いところに一番力を入れるべきなんだろうなというところで、伊場委員が言われた教育のことやスポーツのことが書いてあるんです。だから、皆さんこの22ページを後で見

ていただければと思います。総合計画の22ページにありますので、ここをコピーしてもらえますか。（うなずく者あり）暫時休憩します。

午後2時30分 休憩

午後2時48分 再開

大井淳一郎委員長 それでは、委員会を再開します。先ほど総合計画のページを示したんですけれども、全員で情報を共有したいということで、急遽、中期基本計画の22ページを抜粋しました。これは、市民の皆さんに事前にアンケートをして、市民のニーズの材料の一つになるかなと思って資料を上げさせていただきました。見ていただければ大体分かりますが、重要度の高低が縦軸、満足度の高低が横軸ということで分類して、Aが「充実を望まれる」、Bが「維持を望まれる」、Cが「重点的に取り組むべき」、Dが「関心の低い」ということで、満足度と重要度を図示しています。ただ、Dランクだからといって、施策のランクが低いという意味ではなく、分離してこうなっただけであって、AもBもCもDも重要なものであることには変わりないと思っております。ただ、私たちが政策提言していく中で、一つの指標になるかなと思いました。先ほどAと言ったのは、充実を望まれる、満足度も高く、重要度も低いということで、政策提言をしたら効果的ということかなと思って、例を挙げさせていただきました。ただ、当然、Aの中から選んでくれという意味ではなく、これも一つの指標としてこれからテーマを設定していきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

山田伸幸委員 この表を見ていて何か失礼だなと思うのが、関心の低い施策と出ているんですよね。こういうふうにされると、その分野で頑張っておられる人たちは、あまりいい思いを持たれないというか、その程度の扱いかって思われてしまうんですよね。ですけど、例えば、水産業はなく

なっていていい産業ではないと思うんですよ。実際のところ、調査するたびに水産業に関わる人たちの減少というのは非常に深刻な状況が生まれていて、それに対する重点的な対策が求められていると思っております。しかも、観光交流は非常に関心が低くて、満足度も低いとされておりますけど、市としては重要と捉えているわけです。

中村議会事務局次長 一応、あくまでこれは市民アンケートからという認識は大丈夫ですかね。

山田伸幸委員 ですから、そういうのも含めて、私たちがどこに光を当てていくのか、どういったことで市民福祉の向上に寄与するような提言ができるのかを考えていかななくてはいけない。だから、先ほど大井委員長も言われましたけれど、Dに入っている取り組みべき課題っていうのは非常に大きいものがあるわけですから、その辺も忘れずに見ていく必要があるんじゃないかなと思います。

大井淳一郎委員長 山田委員、当然御認識のとおりだと思いますが、これはあくまでも市民アンケートの中で、何にお困りですかとか、どういったことに関心がありますかとかというところで挙げられた表です。ただ、山田委員が言われるように、私も同感ですが、当然、Dだからといって取り組まなくていいというわけではありませんので、これはあくまでも内訳ということで御理解ください。

吉永美子委員 先ほども申し上げましたが、議員が取り上げるということは、それだけお声があった、必要であるというところだと思うんです。そういう意味では、議会カフェでも出ていますけれども、地域公共交通網をきちんとしてほしいというのは、いろいろな議員が言ってきました。高齢者の方は、年齢的に車をもう手放さないといけないが、山陽小野田市で動くときには大変動きづらい。そうなってくると免許証を返すことをためらうことにもなるので、地域公共交通を高齢者——ここにも高齢者

福祉の充実とありますけど、高齢者のための視点を入れた公共交通をきちんと形成していくことも大事なところだと思うし、重ねて言っていますけども、議員が取り上げてきているというところは大きなポイントだと思っています。

大井淳一郎委員長 ありがとうございます。公共交通も市民のニーズでもあるし、市民の代表である議員も多くが取り入れているという観点からの御意見だったと思います。その他はいかがですか。

笹木慶之委員 先ほど道路交通の関係や環境の問題等々を申し上げましたが、もう一つ思うことは、教育や文化に関連するものです。子供から大人までといった立場に立って環境をつくっていく中で、特に山口東京理科大学が、大学だけにとどまらず、公園通りに住まいもできると。もう1点は、厚狭の南校舎を使ってということが市長から出ているけど、それをつなげていくと、6万人ぐらいのまちなので、大学を中心としたまちづくりに対する視点が違ってくるじゃないかなと。それに結んでいけば、道路交通網の関係も当然のこととして話が出てくるし、商店の振興の問題にも関わってくる。それから、スポーツ関係を見てみると、優秀な子供たちが出てきているんですが、残念ながらほとんどよその地に行っているわけ、勉強しにね。それはいいんだけど、そのベースをつくっていく。そういったものをつないでいくような形を考えるべきじゃないかなと思うわけです。だから、教育と文化等々の問題を広めていくなれば、そのこの辺をどのような形でまちづくりに結びつけられるのかは取り組むべき大きな課題だと思います。そのためには、きれいなまちにしようとか、安全なまち、いわゆる交通事故がないようにしないといけんとか、みんな結びつけていけば、本当に幸せな住みやすいまちづくりにつながっていくんじゃないか。そのキーポイントとして大学が大きな要素になってくると。特に、理学療法士の関係は山口大学にはない部分なわけよね。山口大学にないものをつくるとなれば、整うわけよ。だから、その辺を結んでいけば、かなりのものにボリュームが上がってくるんじゃない

いかなと思います。そういうテーマ性で結んでいきたいと思っています。

大井淳一郎委員長 大学を生かしたまちづくりというのは、前回の政策提言にも挙げられて、当時、笹木委員も主催されました。

笹木慶之委員 だから、その辺のところについての考え方を整理しながら一つ一つを結びつけていくようにすれば、ある程度のボリュームがあるかなと思います。

大井淳一郎委員長 そのほか、どうでしょうか。幾つか挙がりましたがけれども、くくれるものはくくれるかなという感じはします。今日挙げられたもの全ては入れられないけど、当然、今日挙げたもの以外は何も入れてはいけないということではありません。決めたらそこから僕らが政策研究していく中で広げることはできるので。

山田伸幸委員 先ほど出た興味や関心の高い取組の中で、教育という問題が出ました。これも島根県が非常に力を入れていて、一つは津和野町です。ここは、津和野高校を利用して、優秀な講師も招いて、山村留学という形で、よそから移住者を受け入れている。それともう一つが、島留学です。これも以前、視察に行こうとして、あまりにも多くて断られたのが、隠岐の島前高校です。県を挙げて応援しているというようなこともあって、都会から優秀な子供たちがわざわざ移住するといったこともあって、私たちにとっても今までと違った視点で取り組むべき課題を解決しているんじゃないかなという思いを持っています。

大井淳一郎委員長 教育も大事だということで、先進地の事例を挙げていただきました。そのほか皆さんの方で、これはちょっとどうかというようなものがあればお願いします。今日挙げたもので、くくろうと思ったらくくれると思うので、そういうアプローチから次回以降、絞り込んでいきたい。絞り込みというか、くくるということは、結局広がるので、共

通項でやると。でも、それは必ずしも悪いことではないので。

中岡英二委員 先ほど山口東京理科大学を中心とした教育に関する事で、理科大生の知恵を生かしながら、交通政策についても、いろいろな取組をやっていければいいなど。一つにするんじゃなくて、さっき言われたように付随したものをどのように総合的に政策として持っていけるかということが大事じゃないかなと思います。

大井淳一郎委員長 そうですね。政策研究で各種団体との意見交換する中で、理科大生ともできたらいいなと思っております。彼たちが、公共交通ではなくカーシェアリングのほうに結構力を入れているので、僕らが進めようと思っていることと彼たちが考えていることが違っても、そういう意見も入れながら考えていかなければいけない。理科大生に限らず、ほかの方。あと考えられるのは、L A B Vに住んでいる人たちです。あそこの寮は埋まりました。でも、彼たちは、あの辺の状況を知らないじゃないですか。あそこって、サンパークは近いですけど、公共交通網がいいとか、あと商店が近いとか遠いとか。それを、今からまちのにぎわいをつけていこうというのが市の考え方だけど、現時点では、まだにぎわってはいないので、そこの学生とも意見交換が必要かなと思っています。もちろんそれ以外の世代もね。今日出た意見で、できるものがあれば、くくれるというか共通項みたいのがあれば、それを出してみましょう。それにアプローチして、皆さんの中で定める。今日出た意見以外、僕らだけで決めるわけじゃないので、そのためにいろいろな人の意見を聞くわけだから、表に出て、アプローチしていきましょう。また次回以降、今日出た意見を参考に具体化していきましょう。それでは、以上で政策提案特別委員会を終わります。お疲れさまでした。

午後 3 時 3 分 散会

令和 6 年（2024 年） 2 月 2 2 日

政策提案特別委員長 大 井 淳一郎